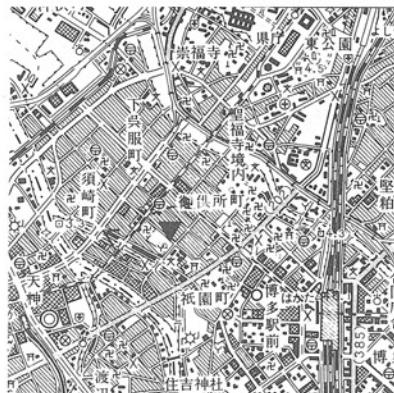


福岡・^{はかた}博多遺跡群



(福岡)

調査地は博多遺跡群が立地する二つの大きな砂丘のうち、南側に位置する博多浜の西側の低地に位置する。

この地点は一二世紀以前は湿地帯の様相を呈し、一三世紀前後に埋め立てを行なつて、遺構を形成している。確認された遺構は一三世紀中頃～一六世紀末にかけての時期のものである。

木簡は右側が欠損している。表面は花押が縦二列に、右側に三個、左側に二個書かれている。花押の列の前後には文字の墨書きがある。

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| 1 所在地 | 福岡市博多区店屋町 |
| 2 調査期間 | 第六一次調査 一九八九年（平1）一二月～一九九〇年一月 |
| 3 発掘機関 | 福岡市教育委員会 |
| 4 調査担当者 | 菅波正人 |
| 5 遺跡の種類 | 中世都市 |
| 6 遺跡の年代 | 平安～江戸時代 |
| 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

遺物は土坑の最下層から木簡のほか、中国製青磁、白磁、土師器、漆器椀、板草履、下駄、箸状木製品、将棋の駒（玉将、香車カ）などが出土した。時期は出土遺物から一三世紀後半に位置づけられる。木簡が出土した遺構は規模二・二×一・二m以上、深さ約1mの不整形の土坑SX一三〇である。土坑の壁面には杭が打ち込まれている。

8 木簡の釈文・内容

(1)

〔左カ〕

・

□

(花押一)

(花押二)

(花押三)

うれしく候に

□

□

□

〔花押四〕

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

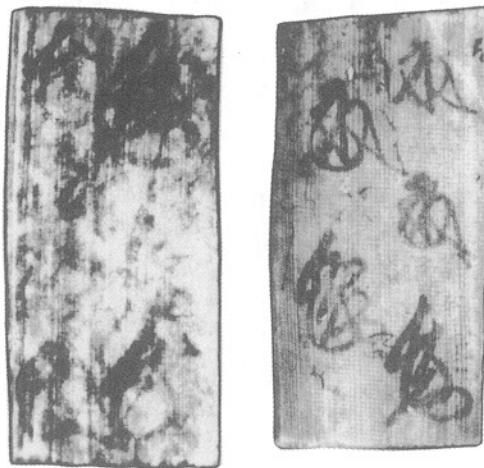
□

□

□

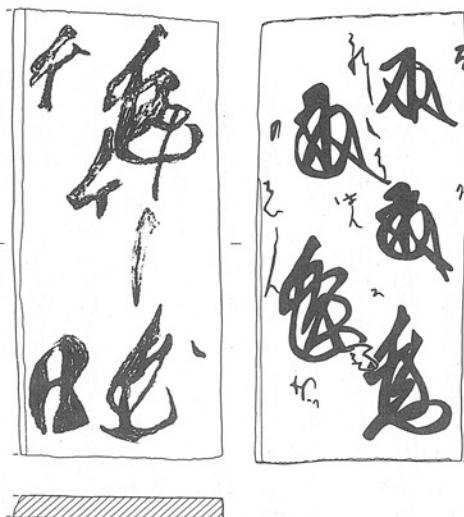
□

1996年出土の木簡



墨書の大半は判読しがたいが、二列の花押の間の文字は「うれしく候に」とある。裏面は花押が縦二列に、右側に二個、左側に二個書かれている。花押の間に墨書があるが、判読できない。表面の花押のうち花押三・五の二個は公家様花押タイプであり、花押一・二・四の三個は武家様花押タイプと分類される。そのうち、後者の花押は鎌倉中後期の北条氏や幕府奉行人・得宗被官の花押の形状に似ている。木簡の時期の一三世紀後半の博多には、鎮西探題などの幕府の機関があり、こうした出先機関の奉行人クラスの花押の可能性が想定される。

木簡の釈読は、九州大学の佐伯弘次氏による。



9 関係文献
佐伯弘次「博多六一次調査地点出土の花押墨書木簡」(『博多二四』福岡市埋蔵文化財調査報告書二五二 一九九一年)
(菅波正人)